

(1) 【報告】地先の安全度マップの更新の背景、更新内容

- ・概ね5年ごとに更新（現行：令和2年3月→令和8年6月中旬までに更新予定）
- ・解析範囲の見直し、地盤高の更新、河川整備等の反映、新たな知見の導入等

(2) 【報告・相談】マップ更新による状況変化・指定済浸水警戒区域の対応

- ・湖西圏域平地部（安曇川沿川）で増加傾向（浸水警戒区域 未指定）
- ・湖北圏域山地部（高時川沿川）で増加傾向（浸水警戒区域 7地区）
- ・信楽・大津圏域山地部（大戸川沿川）で減少傾向（浸水警戒区域 5地区）

(3) 【報告・相談】既に建築許可・建て替えしている物件の対応

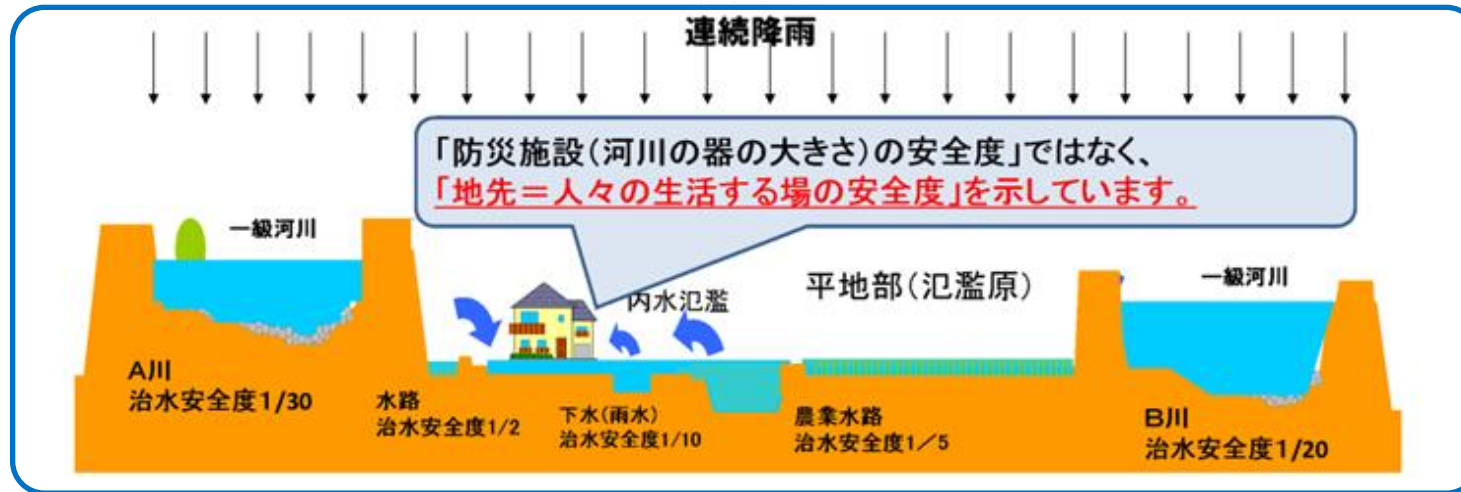
- ・湖北圏域（姉川沿川）の地区（既許可物件 1件）

地先の安全度マップの更新の背景

「地先の安全度マップ」とは、

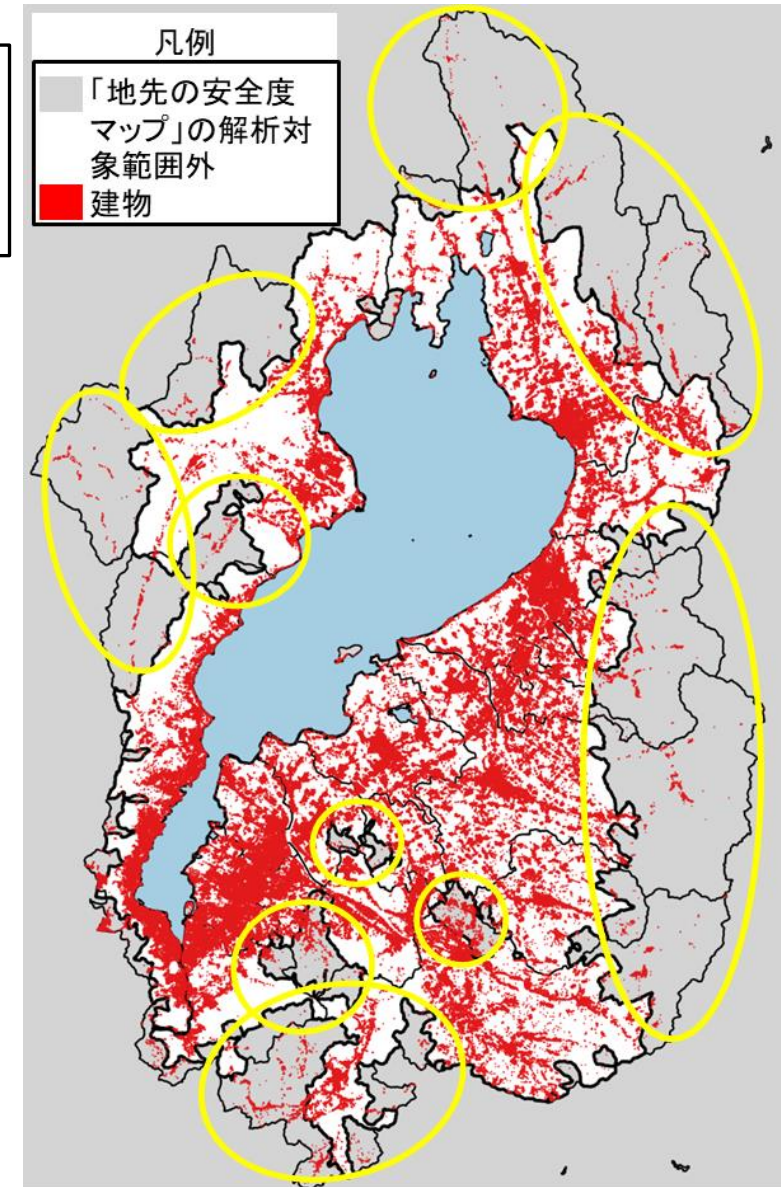
大河川だけでなく**身近な水路の氾濫も考慮**し、滋賀県がシミュレーションを行い、どの程度水害リスク、氾濫による被害が生じるのか明示した**浸水想定マップ**（平成24年9月公表）（1/10、1/100、1/200年確率の雨を想定）

「滋賀県流域治水の推進に関する条例」第8条に基づき、**おおむね5年ごとに更新**を行う。（前回公表：令和2年3月→令和8年6月中旬までに更新予定）



水害リスク情報空白域の解消

山地部は一部に人家や集落（図中 ■ ）があるにもかかわらず現行の「地先の安全度マップ」では解析対象外（図中 ■ ）となっており、県内面積の約3割が水害リスク情報空白域となっている。



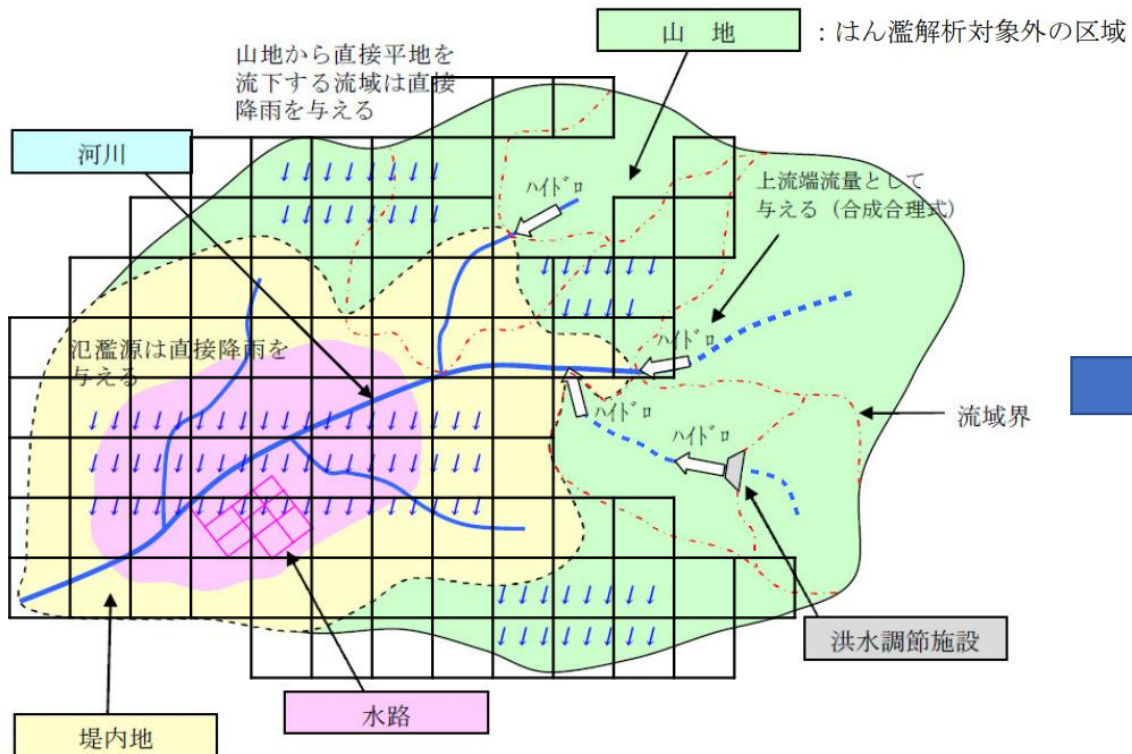
地先の安全度マップの更新内容

「水害リスク情報空白域の解消」を目指した解析手法の更新

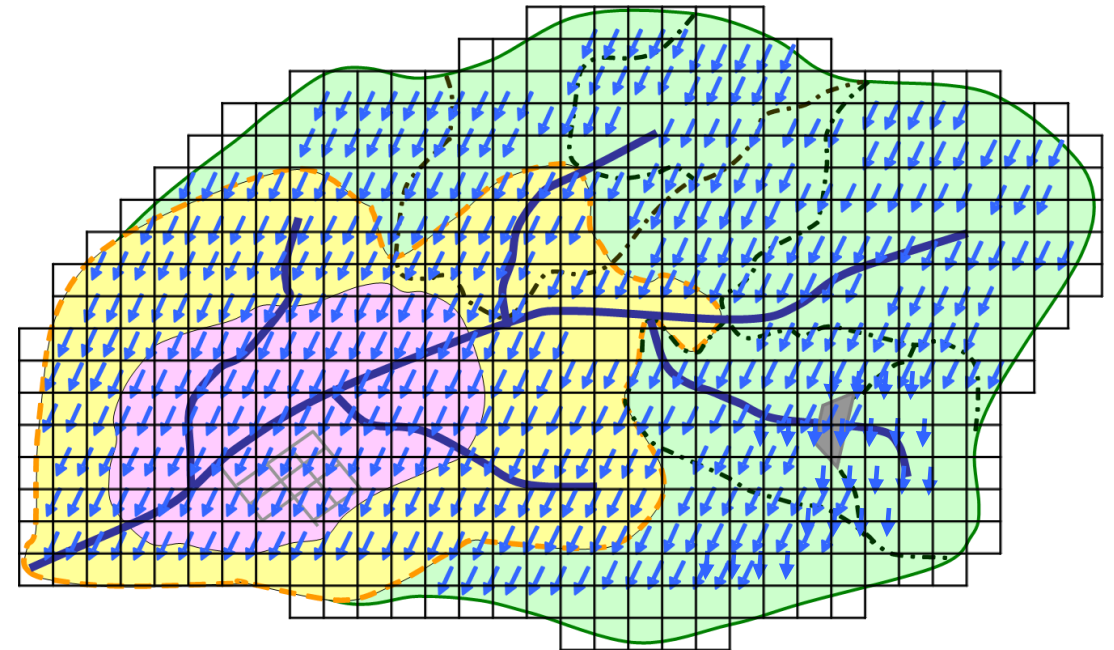
新モデルでは、**山地部にもメッシュを設定し**、平地部と同様に**メッシュに直接降雨を与え**、河川に流入する前の地形や水路等による水の動きも計算し、山地部でも実際の地形に基づく**氾濫・貯留**などを反映する。

また、**メッシュサイズの細分化(50m→25m)**や**地盤高データの最新版への更新**のほか、山地部の一部**河道モデルの新規追加**等により、**より現実に近い計算を実施**する。

既往モデル（令和2年3月公表）イメージ



新モデル イメージ

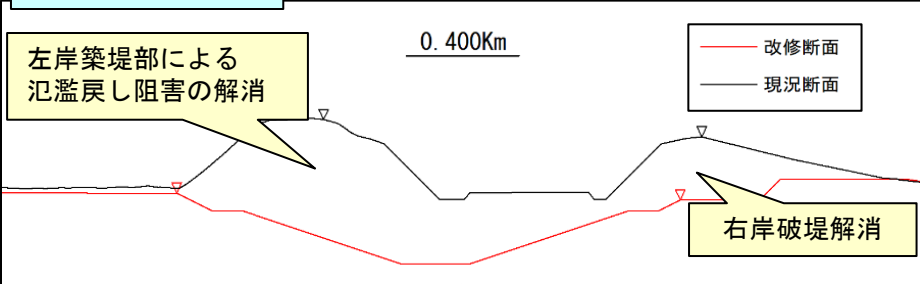


その他の主な更新内容

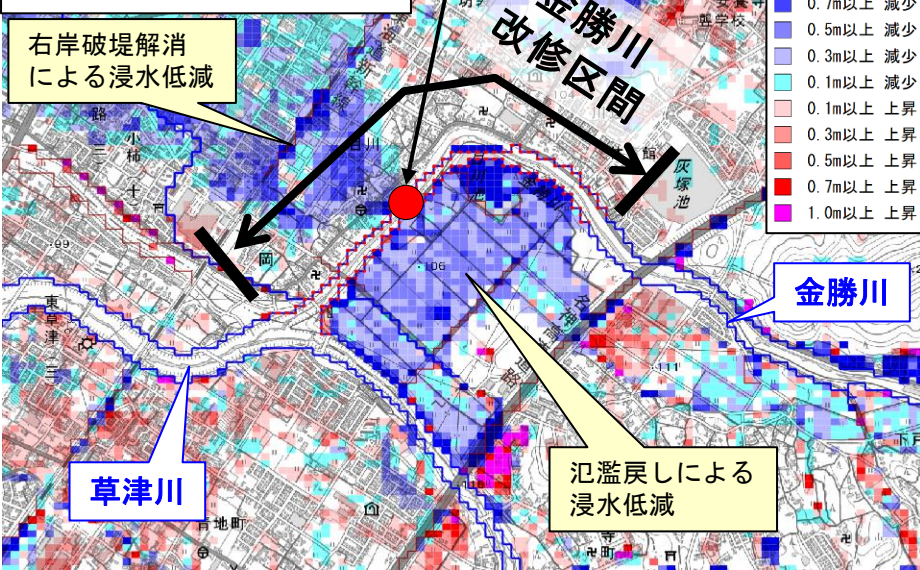
■ 河道モデルの追加・更新

現行：～H30改修河道 ⇒ **今回**：～R4改修河道
現行：水路(等流)モデル ⇒ **今回**：河道(不定流)モデル

河道改修状況の反映

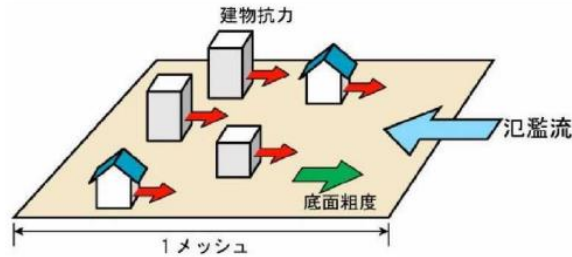


最大浸水深差分図
(令和7年度ー令和元年度)

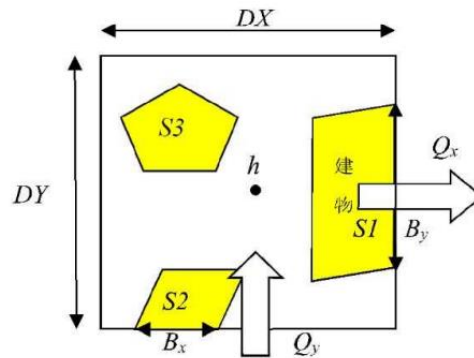


■ 透過率・空隙率の設定

現行：建物等を粗度係数に置き換えて評価
 ⇒ **今回**：建物等をメッシュ情報として考慮し、建物等による阻害・流れにくさを透過率・空隙率として計算に反映 (国の浸水想定マニュアルと同等)

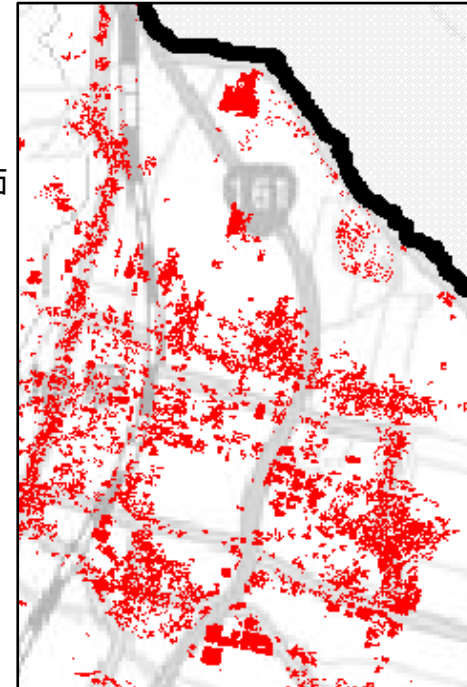


現行：建物抗力は底面粗度係数と合成した等価粗度係数として評価

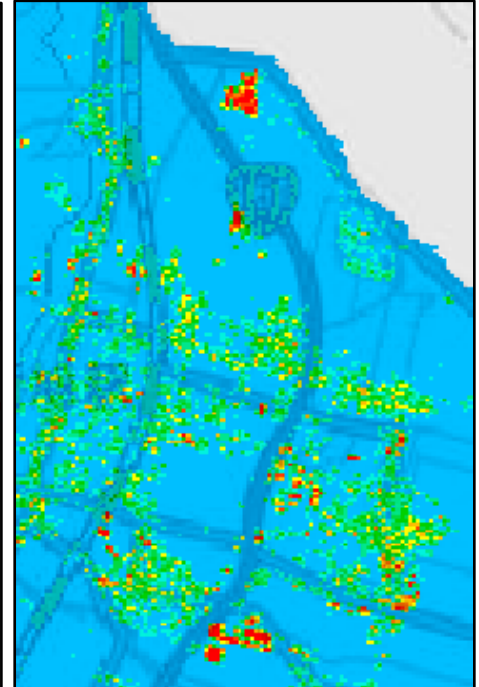


今回：建物抗力
 メッシュへの透過率
 メッシュ面積に占める空隙率
 上記を底面粗度係数とは別に評価

建物分布図



空隙率分布図



地先の安全度マップの更新内容

更新前後の浸水深の変化・変化要因

圏域名	山地部の状況	平地部の状況
志賀・大津	大きな変化なし	大きな変化なし
信楽・大津	浸水深減少傾向	大きな変化なし
湖南・甲賀	大きな変化なし	大きな変化なし
東近江	大きな変化なし	浸水深減少傾向
湖東	大きな変化なし	大きな変化なし
湖北	浸水深増加傾向	浸水深減少傾向
湖西	大きな変化なし	浸水深増加傾向

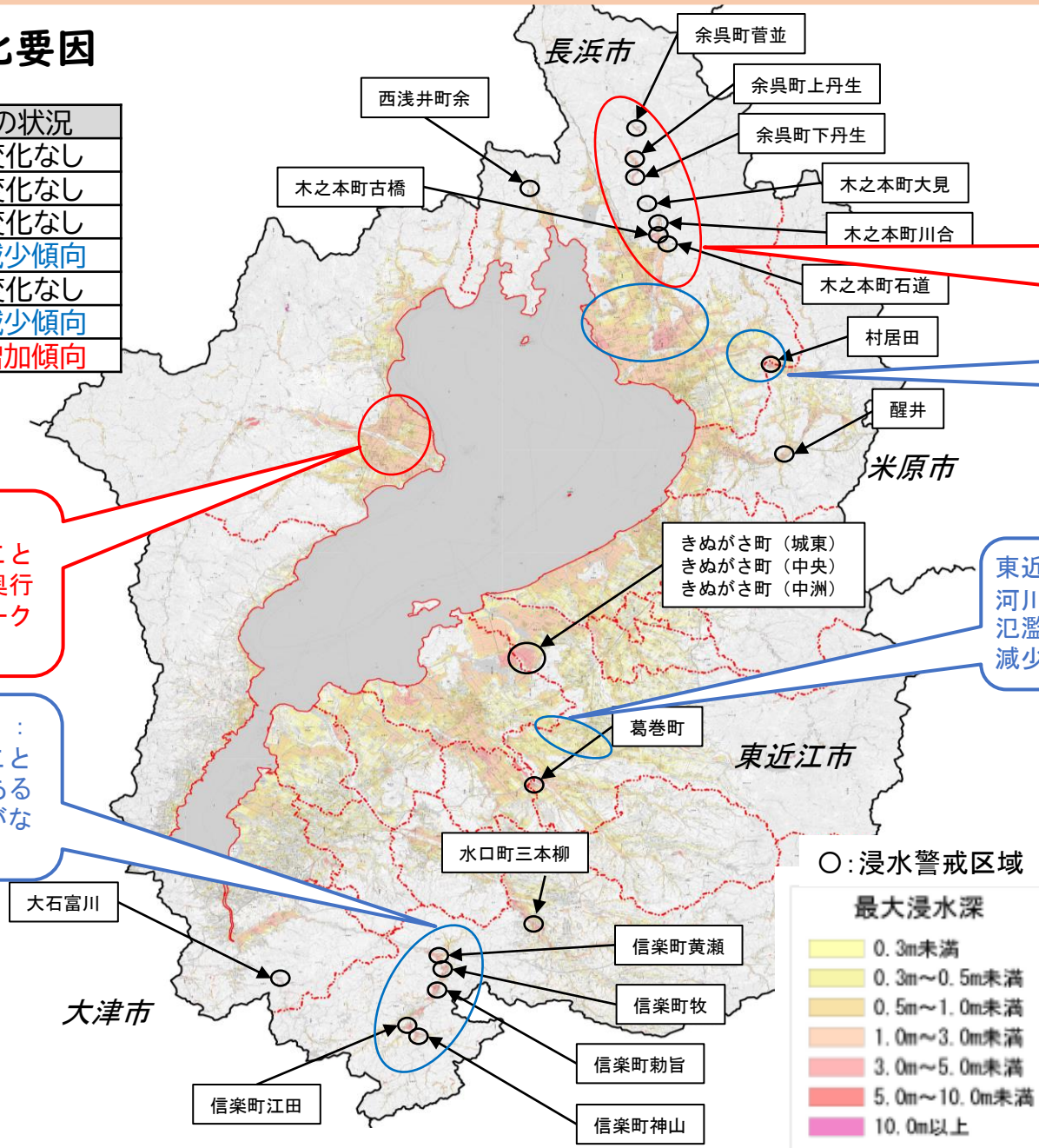
湖西圏域（平地部）：
流出解析手法を見直したことにより、安曇川のような奥行きがある流域においてピーク水位が集中し、増加傾向

信楽・大津圏域（山地部）：
流出解析手法を見直したことにより、幅の広い流域である大戸川では、ピーク水位がなだらかになり、減少傾向

湖北圏域（山地部）：
流出解析手法を見直したことにより、高時川のような奥行きがある流域においてピーク水位が集中し、増加傾向

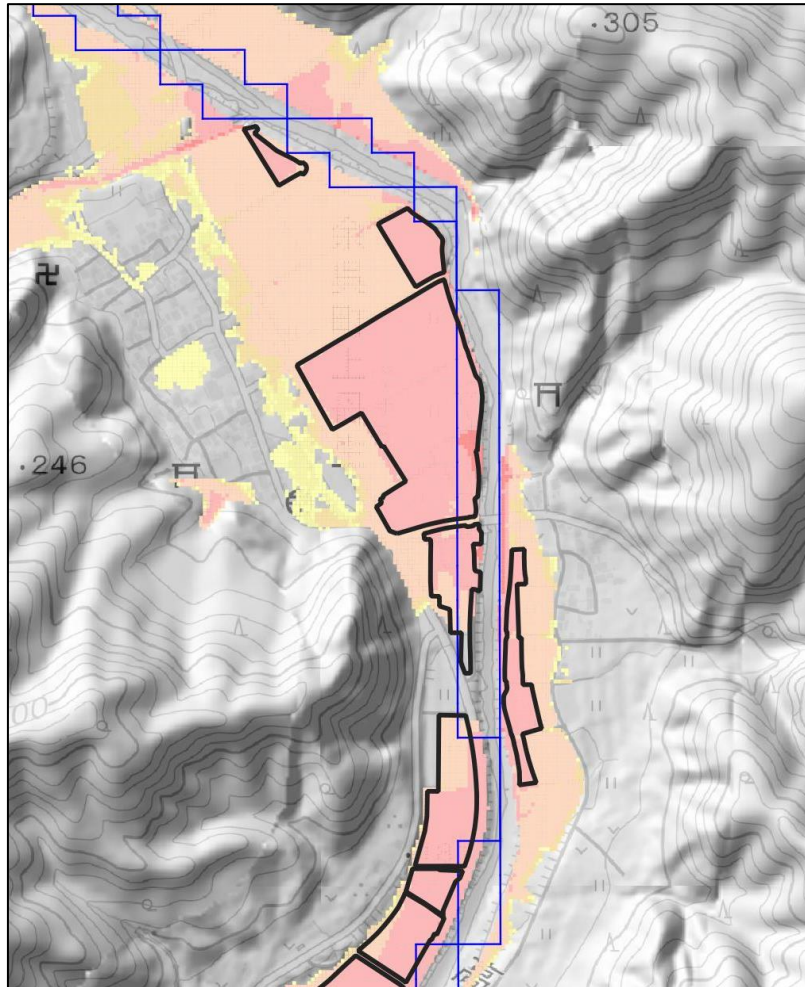
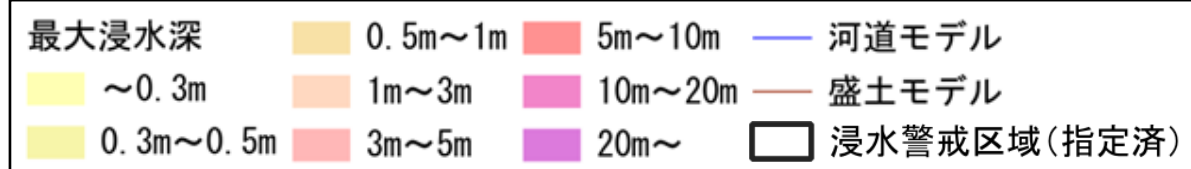
湖北圏域（平地部）：
山地部で氾濫・貯留が生じたことにより、減少傾向

東近江圏域（平地部）：
河川改修効果および上流域の氾濫・貯留等の影響により、減少傾向

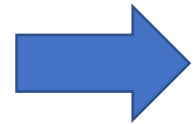


更新による浸水警戒区域指定済の地区での状況変化

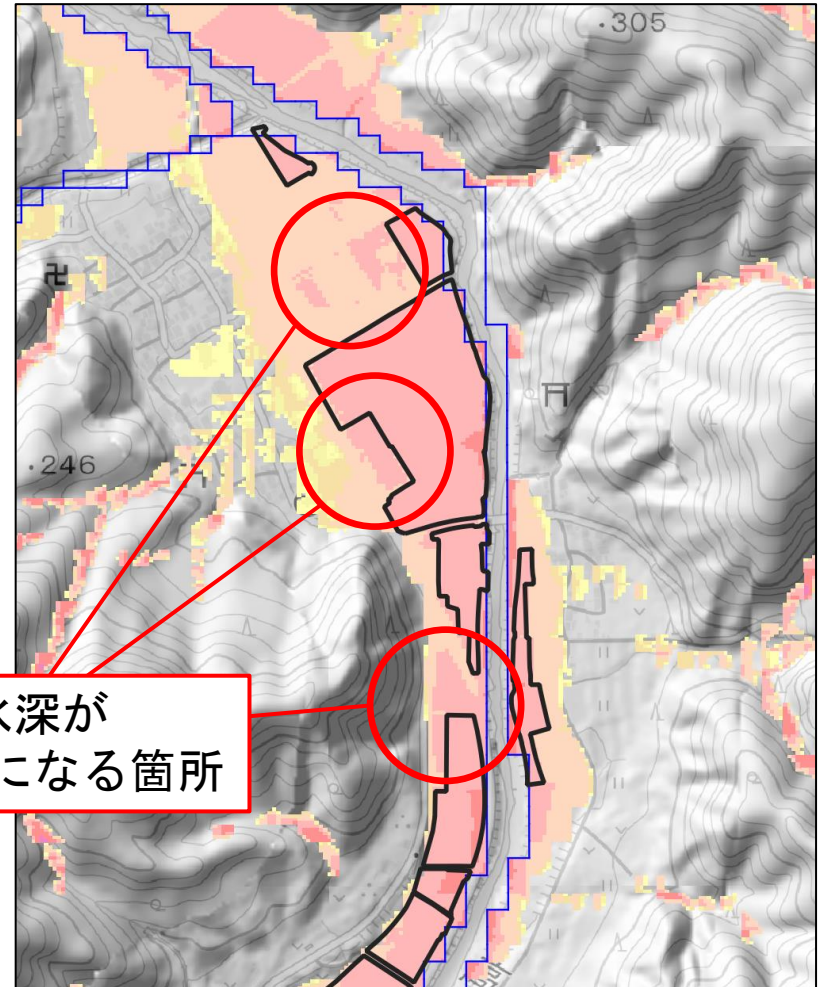
＜高時川沿川の状況＞
更新後のマップでは指定済浸水警戒区域外に
新たに浸水深3m以上となる区域が発生



令和2年3月公表



新たに浸水深が
3m以上になる箇所



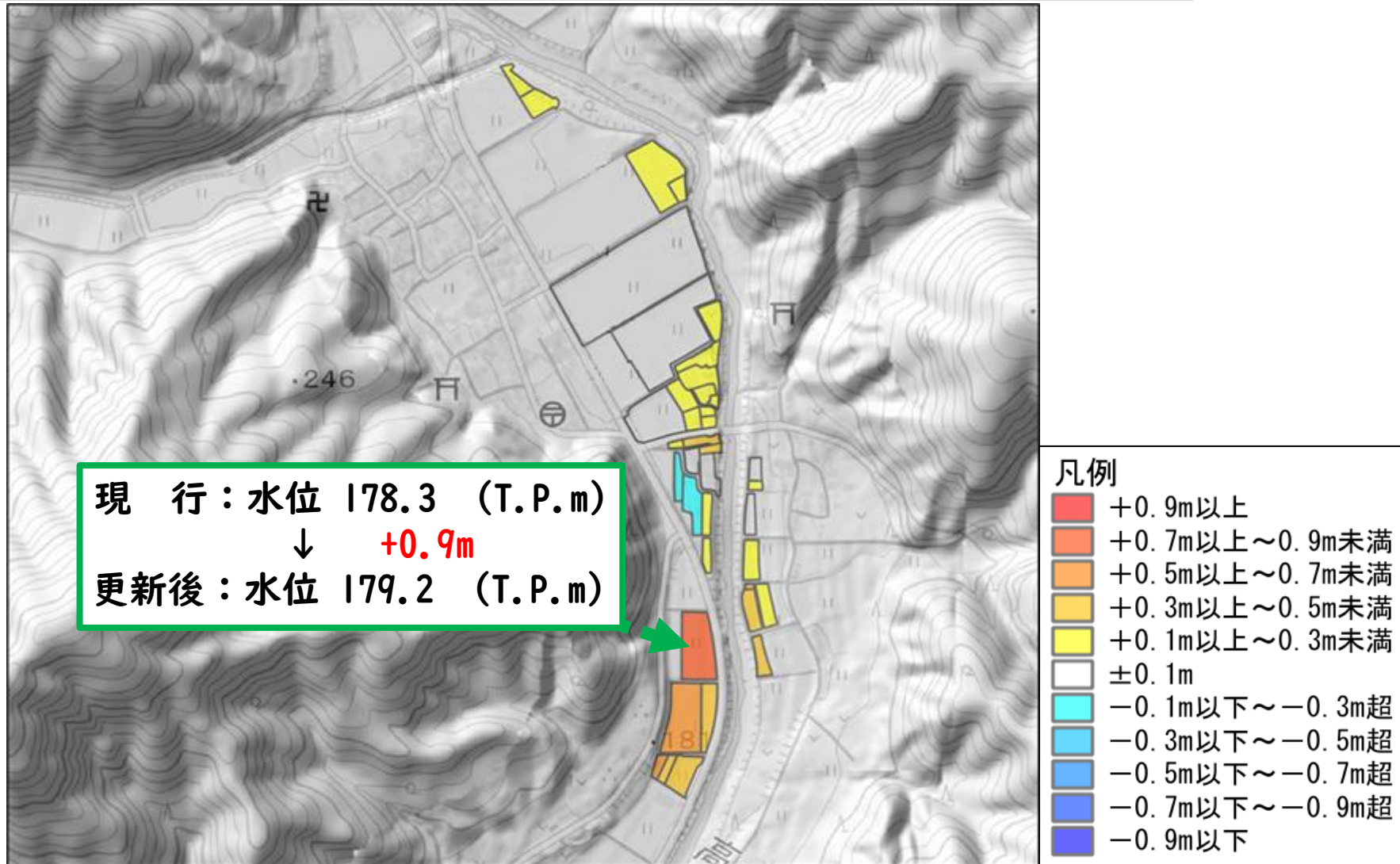
更新後

最大浸水深図 (1/200年確率)

更新による浸水警戒区域指定済の地区での状況変化

＜高時川沿川の状況＞

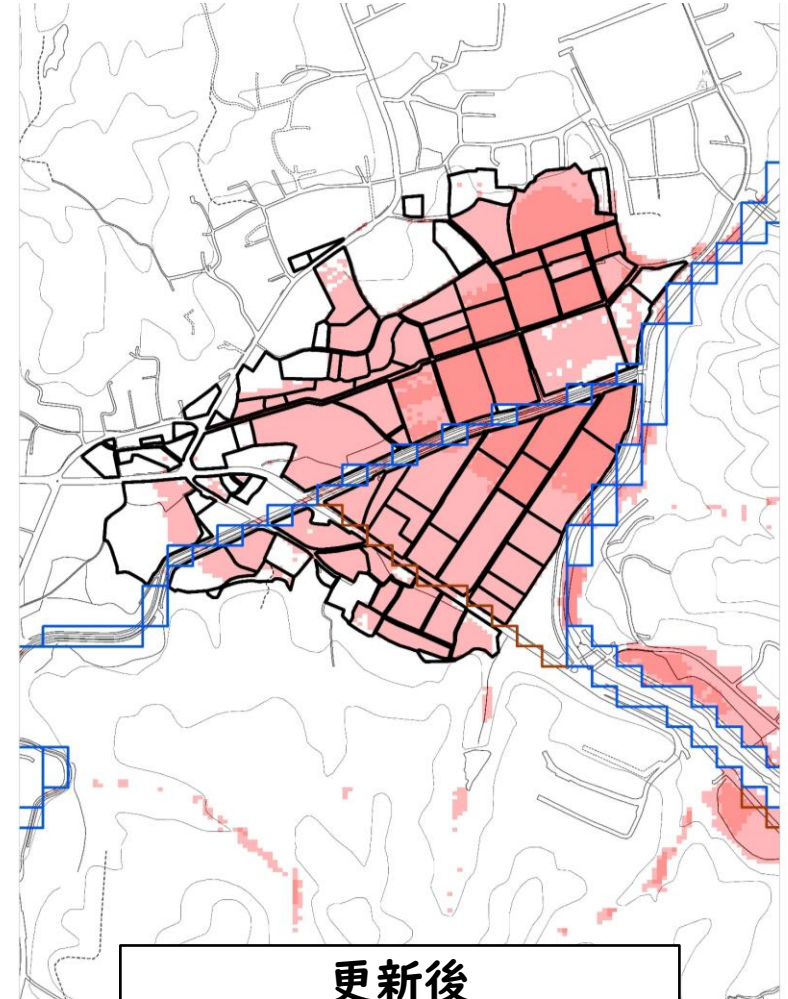
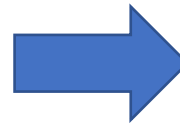
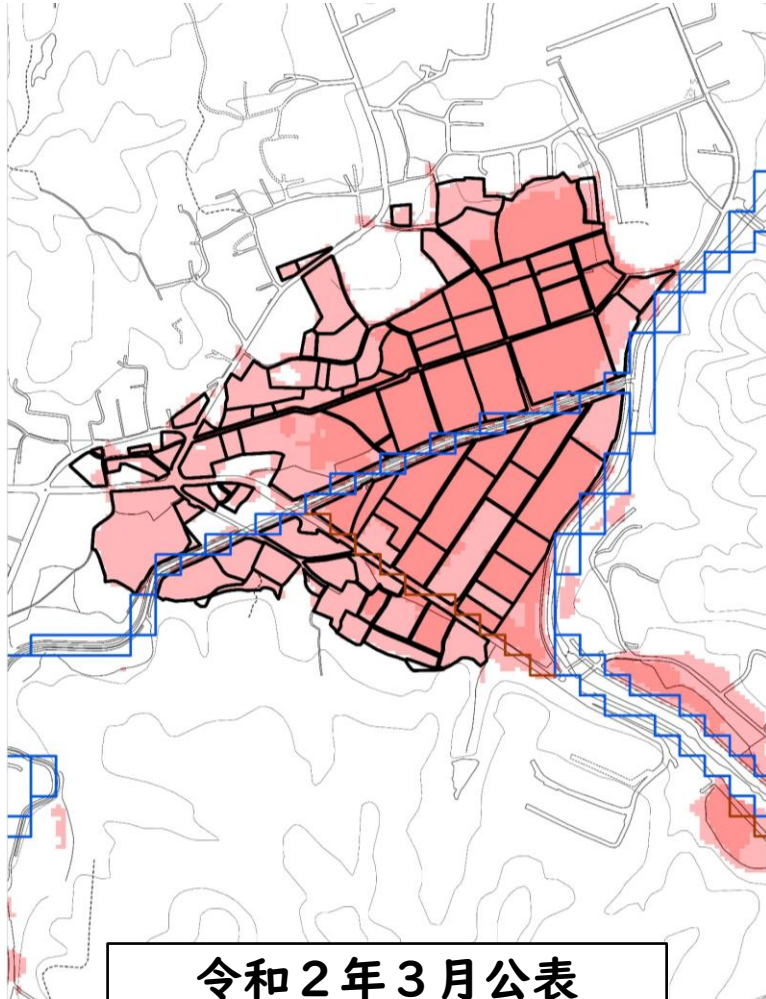
更新後のマップでは変化の大きい箇所では、**想定水位が約90cm上昇**



想定水位変化図 (1/200年確率 R7想定水位－R1想定水位 差分図)

更新による浸水警戒区域指定済の地区での状況変化

＜大戸川沿川の状況＞
更新後のマップでは指定済浸水警戒区域内で
浸水深3m未満の区域が発生

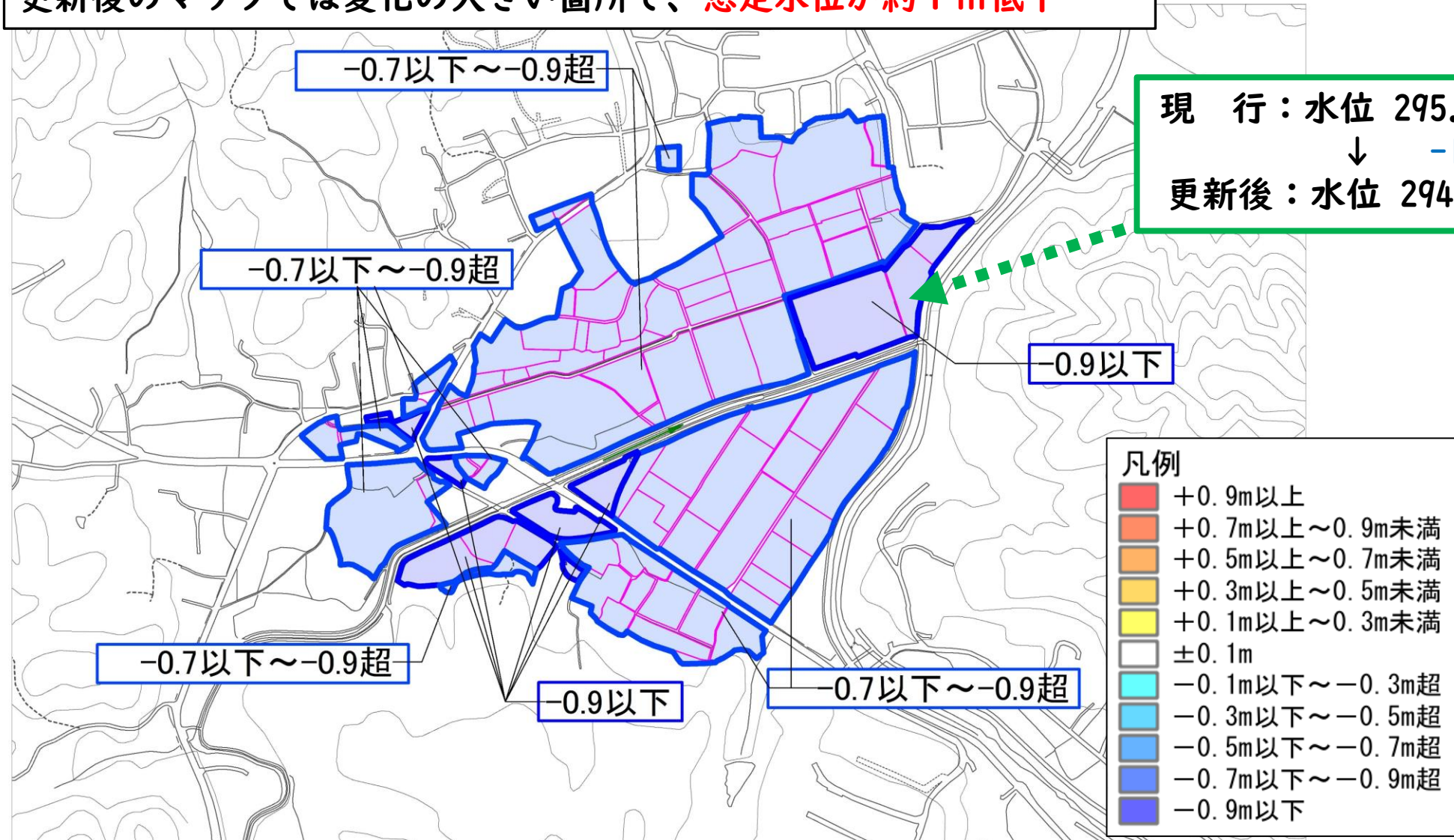


最大浸水深図 (1/200年確率)

更新による浸水警戒区域指定済の地区での状況変化

＜大戸川沿川の状況＞

更新後のマップでは変化の大きい箇所で、**想定水位が約1m低下**



想定水位変化図 (1/200年確率 R7想定水位 - R1想定水位 差分図)

(1) 想定水位の変更

- ・想定水位の**変化が大きい場合は水位を変更**する
- ・水位のみ変更する場合、手続きは簡素化する
(自治会・地権者説明、市町意見照会、当審議会諮問を経て、変更告示)

(2) 区域の変更

- ・盛土や河川改修等により浸水リスクが解消された場合を除き、**区域の縮小や指定解除は原則行わない**。
- ・浸水深3m以上の範囲が拡大し、**人家等が新たに含まれる場合は速やかに区域の変更および指定済区域の水位変更**を行う。

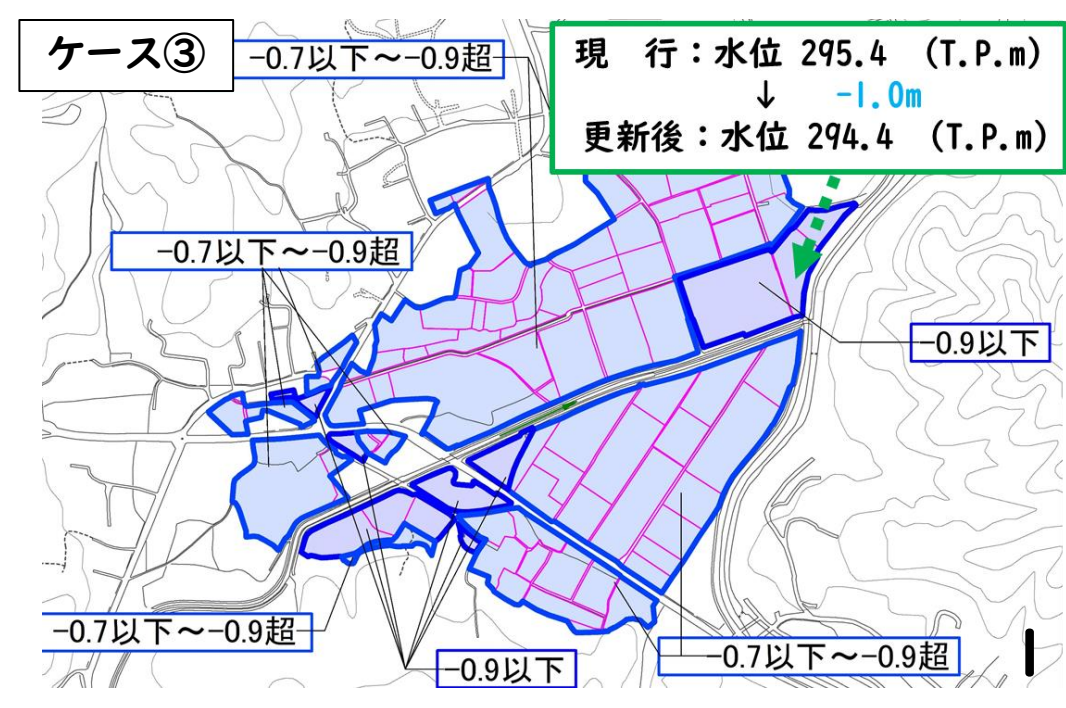
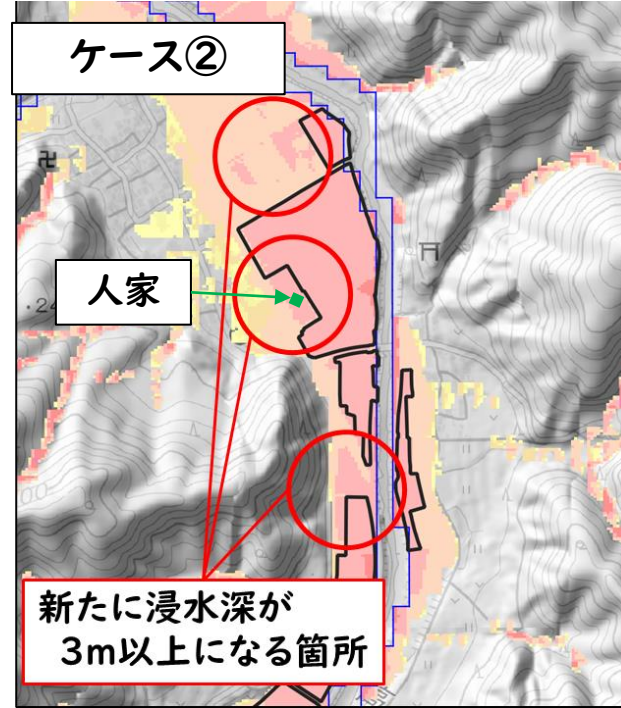
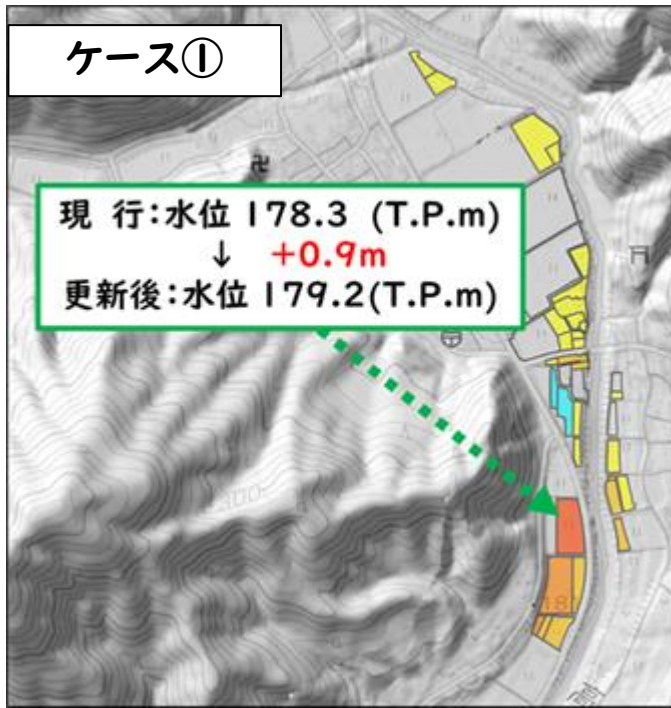
(3) 既に建築許可・建て替えしている物件への対応

- ・変更前の想定水位で建築確認済みの家屋において、想定水位の変更により追加対応が必要となった場合を想定し、**建て替えを伴わない補助も検討**する。
(→答申4(住宅等への支援制度拡充)と合わせて検討)

地先の安全度マップ更新に伴う指定済区域の運用について

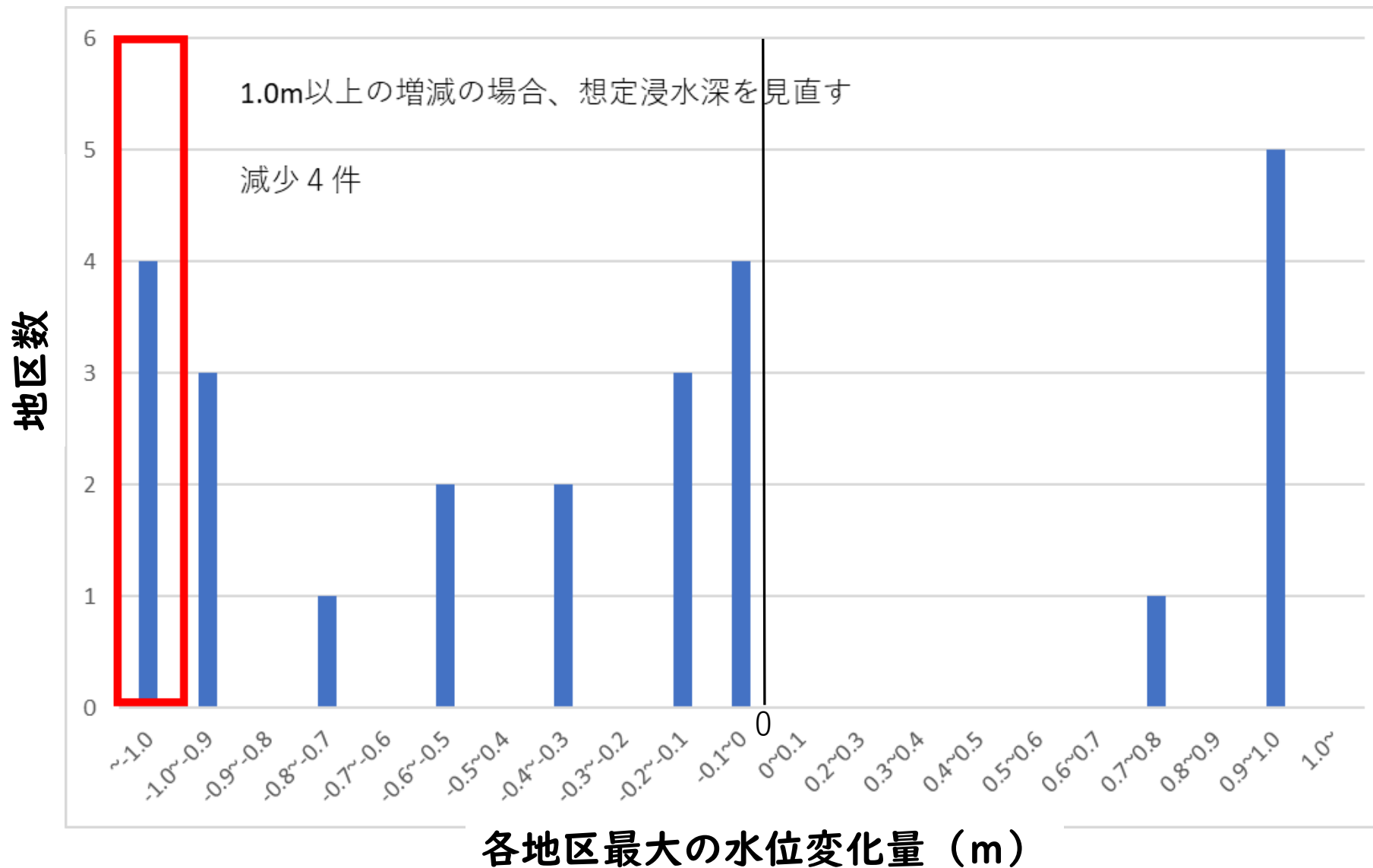
- 地先の安全度マップ更新に伴う、**浸水警戒区域指定済区域および想定水位の変更**の考え方についてご意見を伺いたい。
- 想定水位を見直す閾値を±1.0m**とした場合、**拡大区域内の人家の有無**による事務局案の判断例を以下に示す。

想定ケース	区域指定時の想定水位 (T.P.m)	マップ更新に伴う想定水位 (T.P.m)	水位の変化 (m)	マップ更新に伴う3.0m区域の変化	拡大区域内人家の有無	(1) 想定水位の変更	(2) 区域の変更
ケース①	178.3	179.2	+0.9m	拡大	無	無	無
ケース②	178.3	179.2	+0.9m	拡大	有	有	有
ケース③	295.4	294.4	-1.0m	縮小	—	有	無



【参考】地先の安全度マップ更新に伴う指定済区域の想定水位変化

○指定済浸水警戒区域における想定水位±1.0m以上の変化が発生する地区は4地区。



マップ更新に伴う浸水警戒区域変更指定プロセス案について

重点地区 区域指定プロセス

浸水警戒区域の検討

浸水警戒区域指定(案)を作成

・避難計画の策定
図上訓練
まちあるき
・避難訓練

+

・既存住宅の調査
・住まい方のルール検討

=

・水害に強い
地域づくり
計画の作成

合意
形成

自治会・地権者へ説明(住民説明会、個別説明会など)

圏域協議会にて協議

浸水警戒区域案の縦覧

市町長への意見聴取

審議会への意見聴取

浸水警戒区域の指定(告示)

浸水警戒区域における新築住居等のチェック

マップ更新に伴う変更区域指定プロセス(案)

浸水警戒区域の検討

浸水警戒区域指定(案)を作成

~~・避難計画の策定
図上訓練
まちあるき
・避難訓練~~

+

・既存住宅の調査
・住まい方のルール更新

=

・水害に強い
地域づくり
計画の更新

自治会・地権者へ説明(住民説明会、個別説明会など)

~~圏域協議会にて協議~~

浸水警戒区域案の縦覧

市町長への意見聴取

審議会への意見聴取

浸水警戒区域の指定(告示)

浸水警戒区域における新築住居等のチェック

(1) 想定水位の変更

- ・想定水位の**変化が大きい場合は水位を変更**する
- ・水位のみ変更する場合、手続きは簡素化する
(自治会・地権者説明、市町意見照会、当審議会諮問を経て、変更告示)

(2) 区域の変更

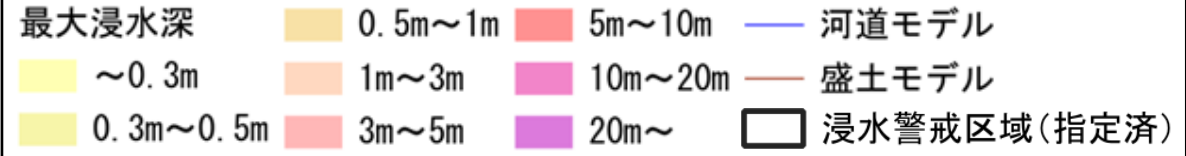
- ・盛土や河川改修等により浸水リスクが解消された場合を除き、**区域の縮小や指定解除は原則行わない**。
- ・浸水深3m以上の範囲が拡大し、**人家等が新たに含まれる場合は速やかに区域の変更および指定済区域の水位変更**を行う。

(3) 既に建築許可・建て替えしている物件への対応

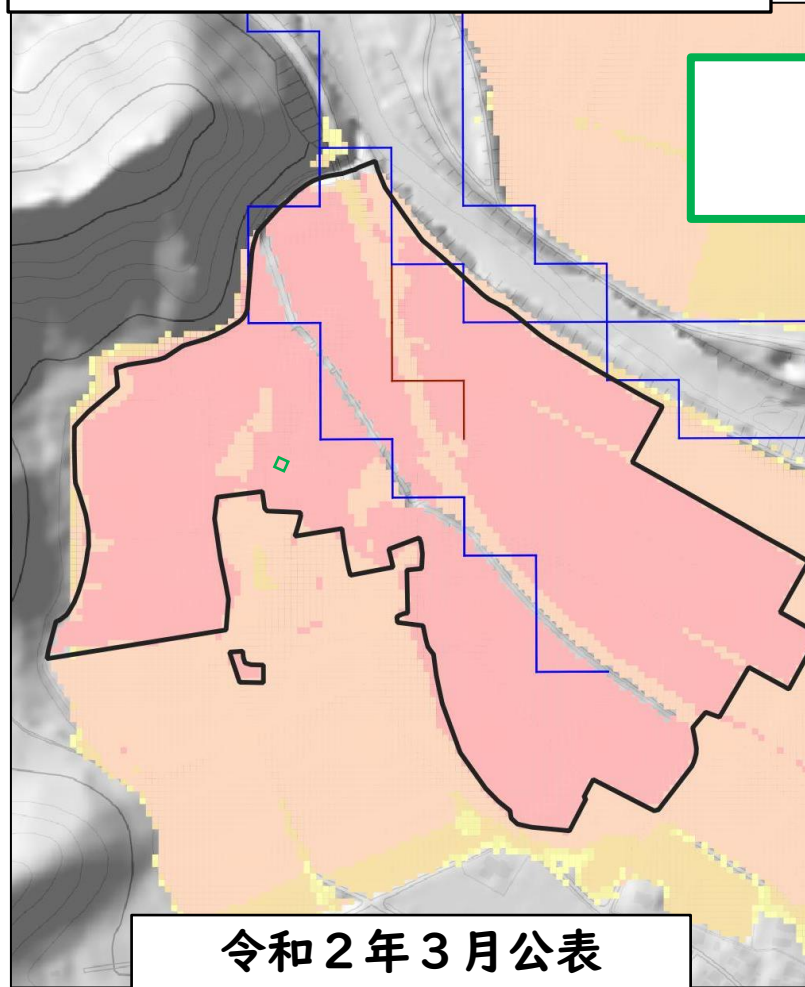
- ・変更前の想定水位で建築確認済みの家屋において、想定水位の変更により追加対応が必要となった場合を想定し、**建て替えを伴わない補助も検討**する。
(→答申4(住宅等への支援制度拡充)と合わせて検討)

既に建築許可・建替済の家屋付近の状況

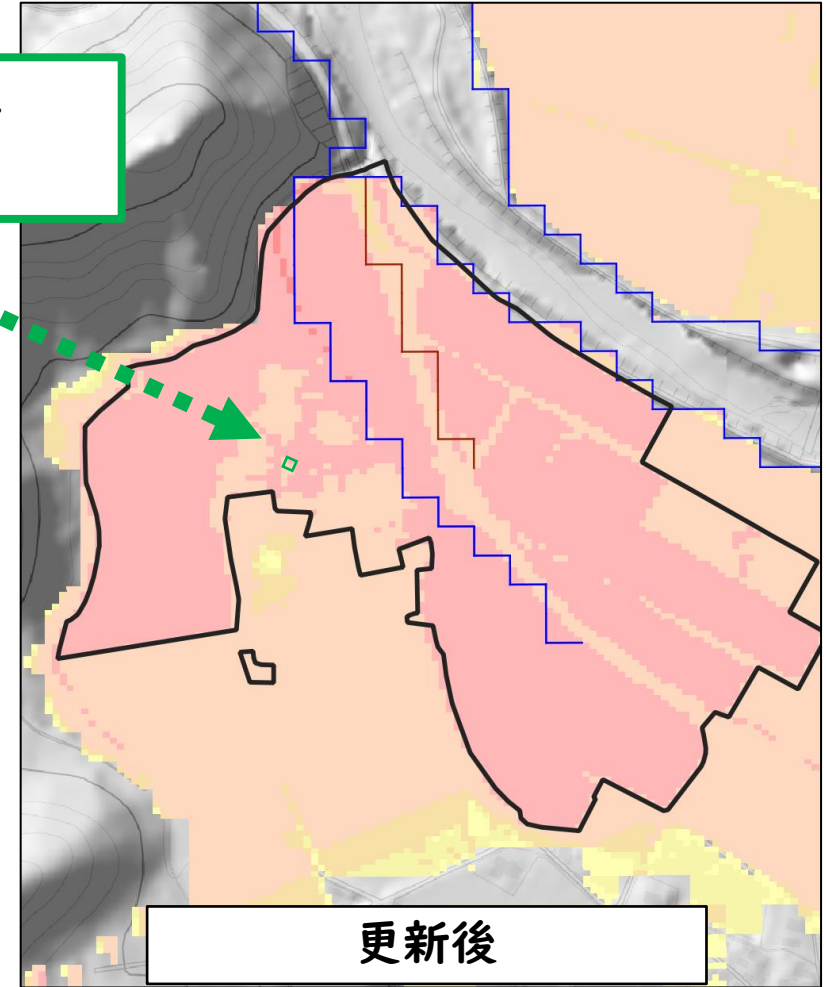
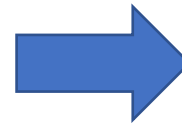
＜姉川沿川の状況＞
更新後のマップでは建替済の家屋付近の浸水深は約3.0m



建築許可・建替済の家屋
実績：1件



令和2年3月公表



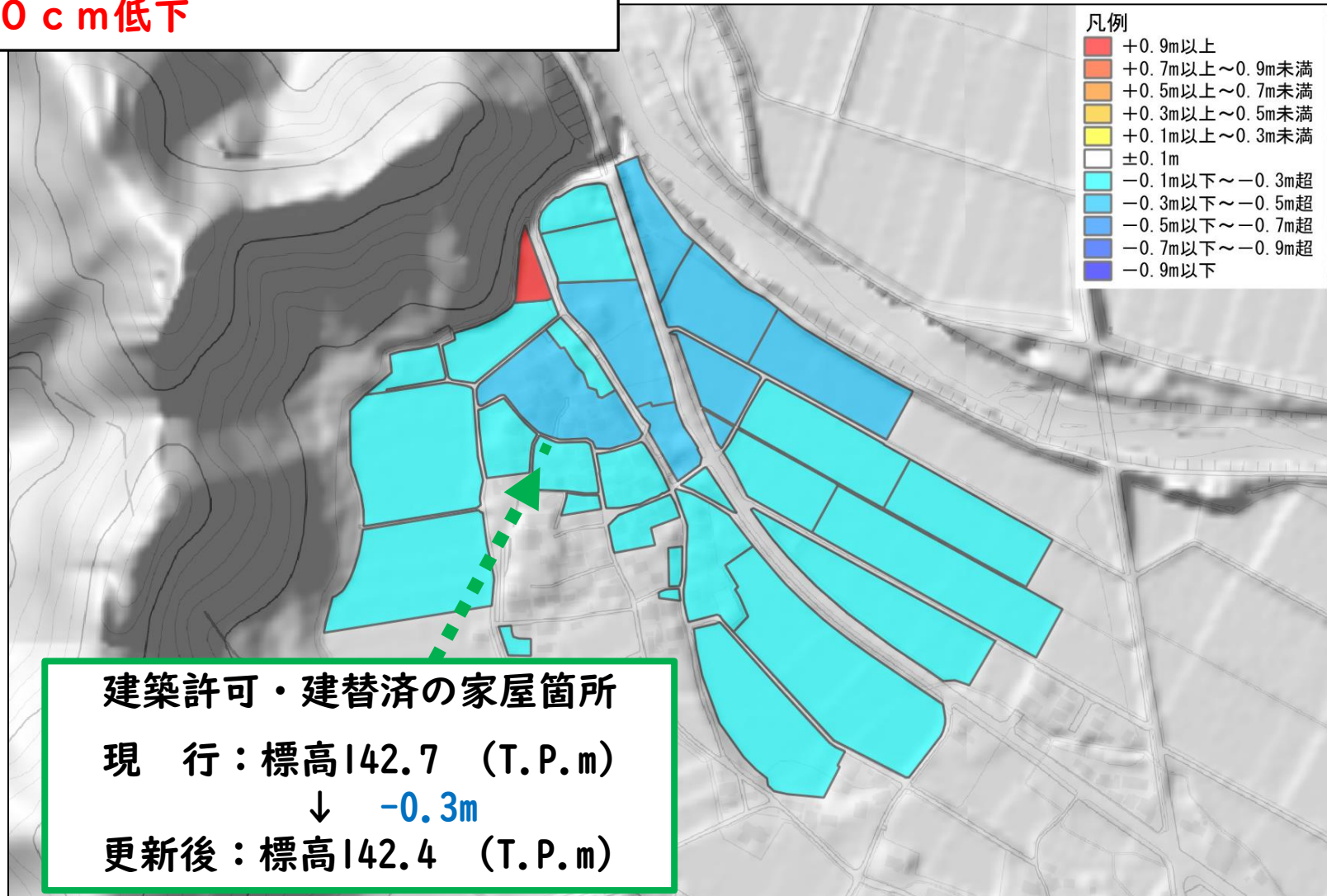
更新後

最大浸水深図 (1/200年確率)

既に建築許可・建替済の家屋付近の状況

<姉川沿川の状況>

更新後のマップでは建替済の家屋付近で、
想定水位が約30cm低下



想定水位変化図 (1/200年確率 R7想定水位 - R1想定水位 差分図)

(1) 想定水位の変更

- ・想定水位の**変化が大きい場合は水位を変更**する
- ・水位のみ変更する場合、手続きは簡素化する
(自治会・地権者説明、市町意見照会、当審議会諮問を経て、変更告示)

(2) 区域の変更

- ・盛土や河川改修等により浸水リスクが解消された場合を除き、**区域の縮小や指定解除は原則行わない**。
- ・浸水深3m以上の範囲が拡大し、**人家等が新たに含まれる場合は速やかに区域の変更および指定済区域の水位変更**を行う。

(3) 既に建築許可・建て替えしている物件への対応

- ・変更前の想定水位で建築確認済みの家屋において、想定水位の変更により追加対応が必要となった場合を想定し、**建て替えを伴わない補助も検討**する。
(→答申4(住宅等への支援制度拡充)と合わせて検討)